

# 特別支援学校女性教師の成長に関する基礎的研究 I

—女性教師を巡る文献的検討—

○内海 友加利

（兵庫教育大学）

安藤 隆男

（筑波大学名誉教授）

KEY WORDS: 女性教師 文献研究 教師教育

## I 問題の所在と目的

インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の質的な充実に向けて、特別支援学校教師の専門性向上が喫緊の課題である。特別支援学校教師の当該学部免許状保有率は 84.9%であり（文部科学省，2021）、養成、採用段階の整備も急がれるが、依然として現職段階における教師の専門性の向上が求められる。とりわけその過半数を占める女性教師のさらなる活躍が期待されるが、女性教師の成長に関する特別支援教育分野における成果は極めて少ない。

特別支援学校は女性教師の割合が高く、2019 年度時点では 61.8%を占める（令和元年度学校教員統計調査）。女性教師は結婚や出産、育児などにおいてキャリアの中断を含む特徴があり、家庭生活と職業生活が混交する複雑なキャリア形成をたどっている（例えば、船山・玉城・杉山ら，2013）。現職段階の涵養が特に重要とされている特別支援学校における女性教師の成長について明らかにすることは、特別支援教育分野における教師教育研究の嚆矢となるものと考えられる。

女性教師に関する研究は、わが国では小学校における女性教師の割合が 50%を超えた 1969 年頃から増加するようになった（南本・渡部，1996）。例えば、1950 年代前半まで「婦人教師」といわれ女性的な特性の発揮を期待されていたことの特徴を析出した研究（浅井・玉城・望月，2011）や、保健体育科など女性のキャリア継続の困難な教科等における力量形成に関する研究（明石・辻・加登本，2015）、女性教師の管理職登用にに関する研究（例えば、南本・渡部，1996）などが挙げられる。これらはいずれも小学校等における研究であり、特別支援学校的女性教師に焦点を当てた研究はない。

そこで、本報告ではわが国における女性教師を巡る研究動向を文献的に整理し、今後の特別支援学校女性教師の成長に関わる研究を展望するうえで基礎的な資料を得る。

## II 文献の選定

本報告では、対象とする文献を論文検索データベース・サービス CiNii により抽出し、文献情報から研究動向を整理した。「女性教師」および「女性教員」をキーワードとして文献を抽出した。抽出された 360 編のうち、学校教育に関する文献であり、学術団体機関誌、大学紀要等の学術論文に加え、教育に関する商業雑誌に掲載されている実践報告等を含めて再抽出した。その結果、1953 年から 2021 年までに刊行された 192 編が選定された。

## III 対象文献の概要

### 1. 年代ごとの文献数

対象文献を年代ごとに整理すると、1950 年代 1 編、1960 年 1 編、1980 年代 5 編、1990 年代 32 編、2000 年代 49 編、2010 年代 91 編、2020 年代 13 編であった。特に多く抽出された 2010 年代の内訳として、2010 年から 2014 年までに刊行されたものは 31 編、2015 年から 2019 年までは 60 編であり、2010 年代後半から現在にかけて増加していた。

### 2. 学校種

取り上げられた学校種を教育機関ごとに分類した。特定できたものとして、小学校 20 編、中学校 2 編、小・中学校 10 編、高等専門学校 2 編、大学 24 編、師範学校 4 編であった。今回対象とした文献の中には、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導等、特別支援教育に関する学びの場が取り上げられたものはなかった。

### 3. 研究課題

文献のタイトル及び概要を踏まえ、キーワードを抽出し内容を整理した。ここでは、頻出度の高いキーワードに基づき研究課題の概要を示す。

抽出された文献は全体的にインタビュー等を用いた質的研究が多く、教師の語りや手記などを事例的に分析した文献が多く析出された（24 編）。鮫島（2014）は、中等教育学校的女性教師の語りに基づき、実践史を取り上げた。ライフヒストリー研究も複数認められ（11 編）、女性教師の語りの中には、当時の社会的地位に関することや、制度が整備されていない中での家庭生活と教職キャリア形成との両立過程が具体的に示されていた（例えば、竹内，2018；高井良，2016）。

女性教師のキャリアに関しては、出産・育児と就労継続に関する研究（例えば、深澤・重川，2015）や、高等学校や大学等における女性教師の雇用状況、女性の管理職登用にに関する研究（11 編）が複数認められた。これらの研究は 2010 年代頃から増加傾向にあり、働き方改革との関係からワーク・ライフ・バランスへの注目が想定できる。また、昇任や管理職登用にに関する文献に関しては、2003 年男女共同参画推進本部決定「女性のチャレンジ支援策の推進について」の中で、2020 年までに指導的地位に女性の占める割合を 30%程度にすることが掲げられたこととの関係が考えられる。しかしながら依然として女性教師の管理職登用にに関する課題が指摘されている（楊，2018）。

### 4. 今後取り組むべき課題

本報告では、わが国においてこれまで取り組まれてきた女性教師に関する研究について概観した。女性教師に関する文献は 2010 年代から現在にかけて増加していることが明らかとなり、取り上げられた研究課題からは、一定程度の傾向が見出せた。今日に至るまで、教師や女性を取り巻く動向は国際的に大きく変化し、国内においても様々な施策が講じられてきた。また、関連領域の学術研究においては、医療職などの女性専門職に関する研究（山田，2016；渡邊，2018）や、イギリスなど欧米諸国の知見が得られている（例えば、滝内，2006）。今後は女性教師を巡る社会制度や関連領域の研究等を踏まえ、研究動向の変遷について詳細に分析していく必要がある。

### （主要文献）

楊川（2018）女性教員のキャリア形成—女性学校管理職はどうすれば増えるのか？—。晃洋書房。

### （付記）

本研究は JSPS 科研費（課題番号 20K14067）の助成を受けたものです。

（UTSUMI Yukari, ANDO Takao）